

## 令和4年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	新生会
事 業 名	先進地視察：公立夜間中学 札幌市立星友館中学校について
事 業 区 分	① 研究研修                      ② 調 査

### 1 上田市での課題と研修・調査の目的

夜間中学校は、戦後の混乱期の中で、生活困窮などの理由から昼間に就労又は家事手伝い等を余儀なくされた学齢生徒が多くいたことから、それらの生徒に義務教育の機会を提供することを目的として、昭和20年代初頭に中学校に付設され、昭和30年頃には、設置数は80校以上を数えた。その後、就学援助策の充実や社会情勢の変化に伴って減少したが、今また、文部科学省でも設置を促進している。2022年4月時点で、15都道府県に40校が設置されているが、長野県内は未設置である。道内で初めて設置された公立夜間中学校の内容について視察を行い、今後の参考としていきたい。

### 2 実施概要

実施日時	視察先	担当部局
令和4年8月17日(水) 13:30~15:30	札幌市立星友館中学校	市立星友館中学校 工藤真司 校長 札幌市教育委員会 柴垣孝治 係長

### 報告内容・感想（まとめ）・市政に活かせること

#### 1 視察先の概要

- ・面積：1,121.26 km<sup>2</sup>
- ・人口：1,973,566人（令和3年12月1日現在）

#### 2 視察先の特徴

北海道の道央地方に位置し、石狩振興局に属する市。道庁所在地、石狩振興局所在地であり、北海道の政治・経済・文化の中心地となっている。北海道最大であり、全国の市の中でも横浜市・大阪市・名古屋市に次ぐ4番目の人口を有する、日本最北の政令指定都市である。

#### 3 視察事項について

◇札幌市立星友館中学校（公立夜間中学）とは

- ・義務教育の年齢（15歳）を超えている方で、国籍にかかわらず、様々な理由により中学校を卒業できなかった方や、不登校などのために十分に学べなかった方などが、中学校などの学習内容を学ぶために、道内で初めて設置された札幌市の公立夜間中学。

◇生徒数は、8月現在89名（1年：43名、2年：27名、3年：19名）

→4月当初66名から毎月入学者があり23名増加。※10/1付け入学まで募集

## 1 視察先の概要

- ・面積：1,121.26 km<sup>2</sup>
- ・人口：1,973,566 人（令和3年12月1日現在）

## 2 視察先の特徴

北海道の道央地方に位置し、石狩振興局に属する市。道庁所在地、石狩振興局所在地であり、北海道の政治・経済・文化の中心地となっている。北海道最大であり、全国の市の中でも横浜市・大阪市・名古屋市に次ぐ4番目の人口を有する、日本最北の政令指定都市である。

## 3 視察事項について

◇札幌市立星友館中学校（公立夜間中学）とは

- ・義務教育の年齢（15歳）を超えている方で、国籍にかかわらず、様々な理由により中学校を卒業できなかった方や、不登校などのために十分に学べなかった方などが、中学校などの学習内容を学ぶために、道内で初めて設置された札幌市の公立夜間中学。

◇生徒数は、8月現在89名（1年：43名、2年：27名、3年：19名）

→4月当初66名から毎月入学者があり23名増加。※10/1付け入学まで募集

◇生徒状況

- ・年代は、10歳代＝13名（14.6%）、20歳代＝12名（13.5%）、30歳代＝14名（15.7%）、40歳代＝12名（13.5%）、50歳代＝13名（14.6%）、60歳代＝3名（3.4%）70歳代＝18名（20.2%）、80歳～＝4名（4.5%）
- ・生徒の居住地は、札幌市内：81名（91%）、市街（さっぽろ連携中核都市圏）：8名（9%）
- ・外国籍・外国ルーツ：8名（9%）→星友館中学校は日本人の割合が高い
- ・中学校を卒業していない：4名（4.5%）

◇入学対象は以下の全てを満たす人

- ・義務教育の年齢を過ぎた人
- ・中学校を卒業していない人、または、卒業していても不登校等の理由により、十分に学ぶことができなかつた人（国籍は問わない）
- ・札幌市及び札幌市と連携する市町村在住の方  
※4月～9月まで入学可。2年生や3年生に入学することも可。入学試験などなし。

◇教職員・スタッフ

- ・正職員：14名、（校長①、教頭①、教諭⑩、養護教諭①、学校事務職員①）
- ・非常勤職員（会計年度任用職員）：市費時間講師3名、（美術、技術、家庭）、道費時間講師（週30時間×約40週分を2名で担当）、ALT（週3コマ）、スクールカウンセラー（年280時間）
- ・ボランティア（学習サポーター）現在19名。希望の曜日に活動。  
→謝礼として、活動1日あたりQUOカード（1,000円分）を進呈。

◇教育課程（コース設定）

※教科については、学年所属に関係なく習熟度別に設定したコースを選択して授業を受ける。

- ・日本語コース…学習に必要な日本語を身に付けることを中心に行う。
- ・スタートコース…国語・数学を中心に、初歩的な内容をじっくりと学習。
- ・ベーシックコース…小4から小6の基礎的な内容を中心に行う。
- ・ベーシック数学コース…内容はベーシックと同じ。数学の時間を多くしている。

- ・スタンダードコース…小6から中1くらいの内容を中心に行う。
- ・チャレンジコース…中学校の内容を扱う。進学希望者向け。

#### ◇学習内容

- ・昼間の中学と同じ教科等を学習。卒業すると、中学校の卒業資格が得られる。
- ・昼間の中学と同じように、教員免許状をもっている先生が教える。
- ・昼間の中学と同じように、行事や生徒会活動を行う予定である。
- ・外国籍の方には、学習の理解を支援するために、必要に応じて日本語の支援を行う。  
(特定の教科や日本語だけを学ぶことはできない)

#### ◇事業日、学習時間

- ・平日の夜間（午後5時30分～9時00分）に学習を行う。
- ・週に5日、1日4時間、週20時間の授業がある。夏休み、冬休みなどは、昼間の中学と同じ期間。
- ・休憩（給食）の時間もある。

#### ◇費用

- ・公立中学なので、授業料はかからない。教科書も無償。
- ・作品を作るのに必要な、半紙や粘土のお金、行事などで交通費がかかることがある。
- ・給食は仕出し弁当方式。1食500円（自己負担300円、公費負担250円）  
がかかる。

※費用に不安のある方には、費用を支援する仕組みもある。（就学支援制度の整備）

#### 4 まとめ

令和2年国勢調査の結果では、全国の未就学者約9万4千人、最終卒業学校が小学校の者約80万4千人、長野県においても、未就学者1,336人、最終卒業学校が小学校の者17,150人となっている。また、全国では不登校の児童・生徒が過去最高の20万人近くとなり、その傾向は上田市においても同様で、年々増加の一途である。

こうした社会情勢の中、既存の学校施設を有効利用した夜間中学校のニーズとその有効性は高く、長野県においても設置に向け協議を進めている状況である。上田市は県下でも不登校の児童・生徒数は多い傾向にあり、また外国籍市民も多く生活しており、夜間中学校の必要性も高いと考えられる。長野県における夜間中学の設置自治体に向け、早急に協議検討が必要と考える。



\* 視察先の写真等がある場合は添付のこと